

ふりがな 氏名	ふじた たかし 藤田 高史	職名	教授
取得学位	博士(保健学)	学会での受賞歴	該当なし
主な担当科目	日常生活活動学、高次脳機能障害作業療法学		
所属学会	日本作業療法学会、愛知県作業療法学会、日本認知症予防学会、日本高次脳機能障害学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
1. 教育方法の実践例		
1) グループワーク	平成30年4月 ～令和5年3月	星城大学での日常生活環境学において、症例を提示し、バリアフリーやユニバーサルデザイン、リハビリテーション医療に基づいた、住宅改修や福祉用具活用などの検討などを実施した。
2) 実技習得実習	平成30年4月 ～令和5年3月	星城大学での日常生活活動学および作業療法評価学において、作業療法評価技術および介助技術を習得させるため、学生同士でこれらの実践を行わせ、技術習得レベルの確認のため、実技試験を実施した。
3) 外部での卒業研究活動	平成30年8月 ～令和5年3月	星城大学での作業療法研究法特論において、健康サロン、有志の脳トレ教室、養護老人ホームなどに学生を引率し、高齢者を対象に卒業研究活動を実施した。
4) 地域貢献活動	平成30年6月 ～令和5年3月	星城大学では、アドバイザー活動として、学生が地域貢献活動を行うことを支援している。養護老人ホームでのレクリエーション、夏祭りを学生に紹介し、毎年2回の頻度で、学生とともに参加している。
5) 地域での介護予防活動	平成30年4月 ～令和5年3月	星城大学での地域作業療法演習と地域リハビリテーション演習において、健康サロン教室や養護老人ホームの高齢者を対象に、介護予防活動を実施した。
6) 臨床能力試験 (OSCE) の実践	平成30年4月 ～令和5年3月	星城大学での身体障害作業療法学実習において、模擬患者を対象とした作業療法評価計画、検査測定、対応能力を学生に習得させるため、臨床能力試験 (OSCE) の計画・実践に主として関わった。
2. 作成した教科書, 教材		
1) 講義プリントの作成	平成30年8月, 令和2年8月	星城大学での日常生活活動学の教科書を補足するために、2冊の著書と3つの論文を元にA4版60枚程度の講義用資料を作成した。
	平成30年8月, 令和元年3月	星城大学での日常生活活動学実習の教科書を補足するために、3冊の著書と5つの論文を元にA4版200枚程度の講義用資料を作成した。起居・移乗・移動動作の介助方法や福祉機器の活用方法について、講義資料に基づきながら実技指導を行った。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
2) パワーポイント (スライド) の作成  福祉用具の作成	平成30年4月, 令和2年3月	星城大学での高次脳機能障害作業療法学の教科書改訂に合わせ、新たに、3冊の著書と5つの論文を元にA4版100枚程度の講義補足配布資料を作成した。
	平成30年8月, 令和2年7月	星城大学での高次脳機能障害作業療法学演習の教科書を補足するために、5冊の著書と4つの論文を元にA4版60枚程度の講義補足配布資料を作成した。
	令和2年7月	高次脳機能作業療法学演習の講義用に4冊の書籍と2つの論文を盛り込み Windows power point を用いてスライド120枚を作成した。高次脳機能障害に関する最新知見を盛り込み、治療についてまとめた。
	平成31年3月	日常生活環境学 (OT) の講義用に3つの書籍と3つの論文、3つの福祉用具パンフレットを元に Windows power point を用いてスライドを50枚作成した。
	令和2年9月	作業療法総合技術演習の教材作成 総合臨床能力試験 (OSCE) 実施に向けて、学生用のマニュアルをA4版で15枚作成した。
	令和元年8月, 令和2年8月	日常生活活動学実習での自助具作成の資料として見本の自助具を3種類作成した。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	Head position of patients with right hemisphere damage during a visual search task in a large field.	共	平成30年8月	World Journal of Neuroscience 8(2)	Ken Nakatani, Shusuke Takahashi, Daisuke Kimura, Masako Notoya, Nobuyuki Sunahara, <u>Takashi Fujita</u> , Minoru Toyama, Shinya Fukunaga, Naoe Mori, Kiyoe Sakai, Shinya Fuwa
	摂食・嚥下リハビリテーションに対する星城大学作業療法学生の興味・関心の調査。	共	平成30年5月	愛知県作業療法 26	中村省吾、 <u>藤田高史</u>
	養護老人ホーム入所高齢者に対する歌唱とパーキンソンダンス効果の検討-バランス能力, 精神機能, 認知機能, 前頭葉機能に着目して-	共	平成31年4月	日本健康レクリエーション研究 15	<u>藤田高史</u> 、和田しず香、渡邊和子
	The effectiveness of diverse technology-based instructions in assisting people with Alzheimer's disease with medication management	共	平成31年4月	Disability and Rehabilitation: Assistive Technology Apr 23	<u>Takashi Fujita</u> , Kiyohito Kato, Masako Notoya

区分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発行・ 発表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論文	女性高齢者とMCI者に対する携帯電話とスマートフォンの使用状況調査 -A市の認知症予防活動参加者を対象に-		令和3年3月	日本認知症予防学会 10	藤田 高史、酒井晴香、筒井歩空
	6. Effect of multimodal non-pharmacological intervention on older people with dementia: a single-case experimental design study		令和4年10月	BMC geriatrics 22	Kyosuke Yorozuya <sup>1</sup> , Yoshihito Tsubouchi, Yuta Kubo, Yoshihiro Asaoka, Hiroyuki Hayashi <sup>1</sup> , <u>Takashi Fujita</u> , Hideaki Hanaoka
学会発表	アルツハイマー病者にスマートフォンを利用した服薬支援の効果について- Skype TV 電話機能を用いて -		平成30年9月	第52回日本作業療法学会(名古屋市)	藤田高史、能登谷晶子、加藤清人
	アルツハイマー型認知症者2名に記憶支援機器「あらた」を用いた服薬支援効果について		令和元年9月	第53回日本作業療法学会(福岡市)	藤田高史、能登谷晶子
	The Effects of Support for Medication Adherence Using Smartphones in Alzheimer's Patients Using Skype		令和2年6月	Mid-Year Meeting 2020 INS & GNPÖ VIENNA MEETING (Vienna City)	藤田高史、能登谷晶子
	アルツハイマー病者に対し記憶補助ツールとして Skype を用いた服薬管理の効果について アルツハイマー病者の適応基準の設定～		令和3年9月	第55回日本作業療法学会(オンライン開催)	藤田高史、能登谷晶子、木村大介、加藤清人
	Web 会議システムを利用し、遠隔でバランス検査を実施した場合の再現性と信頼性の検討 若年健常者を対象とした予備実験～		令和4年9月	第56回日本作業療法学会(京都市)	藤田高史
その他 (報告書)	地域づくりに基づく新総合事業のための専門職と非専門職の効果的な連携のあり方に関する研究		令和元年度	令和元年度・長寿医療研究開発費	村田 千代栄、斎藤 民、野口 泰司、藤田 高史